

2008年度事業報告書

(2008年4月1日から2009年3月31日まで)

特定非営利活動法人札幌チャレンジド

【特定非営利活動に係る事業】

1. パソコン講習会事業

札幌チャレンジドのパソコン講習会場でのパソコン講習は、ここ数年、受講者が減少している。一方で、入門コースなどの初歩的な講座への新規受講者は、常に一定数いることから、札幌チャレ講習の潜在的な受講希望者は継続して存在すると考えられる。

2007年度から始まった中国帰国者向けのパソコン講習は、週に4講座を開催しており、チャレンジド講師の就労機会として大きく寄与している。

また、札幌市のまちづくりセンターへの講習も5箇所実施した。毎年、同程度の箇所から講習依頼が継続している。

総計すると2008年度も年間延べ約3,000人程度の受講者にパソコン講習を実施した。

2. 視覚障害者支援事業

視覚障害者へのパソコン講習会は、札幌チャレンジドの事務所での講習会を継続して実施している。概ね週に3コマ程度の講習会を開催している。新規の受講者が徐々に増えている。

2008年度は、NPO法人スパンとの協働事業として、「遠隔講習事業」に取り組んだ。今回の遠隔教育は、関東で2つ、北海道で3つのチーム。それぞれ講師が一人、受講生が一人、サポートが二人の四人ひとグループで、週に1回90分の講習を16回行った。

(以下、札幌チャレ日記の報告より)

受講者のみなさんはとても熱心に、また楽しんで学習をされ、現地でサポートするみなさんの熱意ある活動も素晴らしかった。長いようで短かった、あっという間の時間でしたが、サポート、受講者の方々とともに、とても楽しく充実した時間をすごすことができました。ありがとうございました。

受講者のみなさんには今後もパソコンをより快適に使っていただき、更に充実したパソコンライフを過ごしていただければと思います。また、サポートのみなさんは、視覚障がいのある方のパソコンサポーターとして、地元で今後も活躍いただけるよう願っております。

また、更にこの遠隔講習でできたつながりの輪を広げていき、点在する視覚障がいをおもちの人々にとってパソコンが利用しやすい環境が整っていくことを願って、今

後もいろいろな活動の道を考えていきたいと思ひます。

以下は、成果物として完成したテキスト4冊です。

- ・遠隔パソコン教育テキスト 受講者用（デジター図書付）
- ・遠隔パソコン教育テキスト 指導者用
- ・視覚障害者パソコン体験講座テキスト（デジター図書付）
- ・視覚障害者に対するパソコン指導者養成講座テキスト

3. 重度障害者支援事業

2008年度は、日本財団の助成金により「重度障害者事業」に取り組んだ。事業概要は以下のとおり。

5月23日 「重度障害者支援ネットワーク構築事業」説明会開催

7月6日 「重度障害者支援ネットワーク構築事業」第1回セミナー開催

重度障害者の家族や、さまざま角度から患者を支援する担当者が事例報告

4月～平成21年2月 事例研究会、ヒアリング調査の実施

- 活動開始時期より、北海道内のさまざまな地域の患者本人、家族、支援者からの相談を受け現地を訪問し、38名の患者の事例研究を行った。詳細は、「助成事業期間中に対応したケース一覧」参照。
- 訪問や電話などで現在抱えている問題点などを聴き取り、まとめた（ヒアリング調査の実施）。

3月1日 「重度障害者支援ネットワーク構築事業」第2回セミナー開催。

モデル3ケースの事例を発表、および1年間の活動報告を行う。

事業の成果は以下のとおり。

当初予想していた相談件数をはるかに上回り、この活動の必要性を強く実感した。事業計画当初には病院の相談担当者（MSW）やリハビリ担当者（OT,PT,ST）からの相談が大半を占めることを予想していたが、実際には半数近くが道内各地域にある保健所（保健師）からの相談であり、地方の「意思伝達装置導入」に関する情報の不足、および支援者自身が連携できる機関や相談窓口がわからないという問題の深刻さが明らかになった。

また、アンケート実施については、事業開始にあわせて実施する予定であったが、導入経験の有無や、実際に導入を検討する時期が違ふため、事業終盤になってからの実施となってしまった。が、回答者からは快く協力を得ることが出来た。

道内であっても札幌周辺から離れるほど情報が得にくくなる「情報格差」があり

- 在宅患者が意思伝達装置を体験するためのデモ機の貸し出しを受けること
- 患者が意思伝達装置の操作を習得する際に支援してくれるボランティアを集めること

が難しいという問題もあり、比較的情報や人が集まりやすい「保健所」を中心としたネットワークを構築する事で、コミュニケーションに重篤な障害をもつ重度障害者の意思伝達装置導入が今より円滑に進むことが期待できる。

この事業は単年度で終了できるものではなく、今年度撒いた種に今後どのように水や栄養を与え、成長させていくかが課題である。情報提供のためのホームページ作成や地域に向けたボランティア研修（遠隔操作を併用）なども今後検討していきたい。

事業の成果としては、良好なものが得られたと思う。重度障害者の意思伝達支援事業は、それ自身で財源を得ることができる事業ではないため、助成金による財源確保が重要である。

4. 就労支援事業

2006年10月から就労継続支援サービス事業の事業者となった。この事業では、サービスの利用者（仕事を求めているチャレンジド）に対して、仕事の提供や教育訓練を実施することで給付金が支給される。事業会計を区分する必要があるため、就労支援については、就労継続支援サービス事業の対象事業と、対象外の支援事業に分けて報告する。

（1）就労継続支援サービス（A型）事業

2008年度は、雇用契約者16名、非雇用契約者17名の合計33名が就労継続支援サービス利用者として仕事に従事した。

また、就労継続支援サービス利用者以外のチャレンジドを含めた全チャレンジドは50名、一年間の給与支払総額は、17,656千円となり、2007年度より約4,633千円の増額となった。受注業務の種類が増えていることで、仕事の選択の幅が広がり、より自分の適性に合った仕事を選べる可能性が広がっている。

利用希望者も増えており、新たな業務の受注に向けて営業活動の強化と技術指導スタッフの充実が課題である。

さらに、2008年度は、就労継続支援サービス利用者の中で3名が企業に就職した。

（2）就労継続支援サービス事業以外の就労支援事業

就労継続支援サービスの利用者以外を対象に、能力に見合った適切な仕事がある場合には、就労支援を行っている。不定期的な仕事で札幌チャレンジドと関わることから始まり、その後、定期的な業務を担当して、就労継続支援サービスの利用者になる場合もある。

仕事を希望するチャレンジドが登録する就労支援制度の就労メーリングリストには、2009年3月31日時点で77名が登録している。2008年度の新規登録者数は、24名であり、コンスタントに登録者が増えている。

(3) チャレンジドが従事する主な業務内容

パソコン講習講師

キーワード付与業務

写真加工・切抜き業務

字幕製作業務

ネット上における監視業務（掲示板など）

カタログ掲載商品のデータ入力・画像編集業務

アンケートデータ入力業務

リライト業務（原稿を必要な文字数で書き換える業務）

データ収集業務（ネット上のデータをお客様の依頼によって収集する業務）

ホームページ制作業務

ホームページ更新・修正業務

アフィリエイト関連業務（商用アフィリエイトのための補助業務）

商用イラスト作成業務

WEBモニタリング業務（ネット上のデータをお客様の依頼によって調べて報告する業務）

テープ起こし

事務局業務

(4) 主な継続業務受注企業

(株)データクラフト

(株)デーシーアーカーイブズ

(株)ディーボ

(株)カンバス

有限会社未来検索ブラジル（株）ニワンゴ）

(株)セールスフォース・ドットコム

有限会社エイドパーティ

日本環境システム株式会社

(株)TPG（ゴルフモンスター）

NPO 法人札幌市障害者小規模共同作業所連絡協議会

5. 行政からの受託事業

(1) 札幌市障がい者ITサポートセンター事業

パソコン講習会

札幌市身障者センターにおいて、身体、知的、視覚の障害別に、128回の講習会を行いました。また今年度はビスタによる講習会も行った。

パソコンボランティア派遣

今年度は飛躍的にパソコンボランティアの派遣依頼が増加した。今年度の派遣依頼は245件。12月にはボランティア研修会を行い、21名が参加、内17名が派遣ボランティアとして登録を行った。

相談業務

電話401件、メール10件、来所・FAX236件の相談を受けた。

(2) 札幌市コールセンター就労促進ネットワーク会議事業

札幌市と市内でコールセンターを運営する企業約30社が二ヶ月に1回の会議を行ない、事務局を札幌チャレンジドが担った。障害者を対象としたコールセンター見学会を3回開催し、17名の就職が決まった。

(3) 北海道立高等技術専門学院からの受託研修事業

就労のための研修会を2回行った。就労が決まった障害者は12名であった。

6. 子育て！北海道事業

2006年12月に開設した子育て支援のポータルサイト「子育て！北海道」の運営に関する事業。NPO法人北海道子育て支援ワーカーズと協働で運営している。

サイトのアクセス数は、月間約12,000から15,000ページビュー程度で一定数のアクセスが継続している。特に力を入れているコンテンツは、「発達障害サポートコーナー」であり、最もアクセス数が多い。また、イベント情報への投稿依頼も継続した依頼があり、利用者にも喜ばれている。

平成20年8月と21年2月には、子育て！北海道主催イベントを開催し、参加者は合計46人であった。アンケート結果からも好評であった。

最大のバナー広告主であったコープさっぽろのバナー広告が3月31日で終了となったため、2009年度は、新規のバナー広告の獲得が重要な課題となる。

7. NTTコムウェア北海道(株)の社会貢献事業

2007年度からNTTコムウェア北海道(株)が社会貢献活動として実施している事業。道内の児童養護施設の子どもたちや障がいのある子どもたちを札幌ドームで開催される日本ハムファイターズ戦に招待している。同社が年間シートを10席購入し、同社のボランティア1名、札幌チャレンジドのボランティア1名、施設の子どもたち8名と一緒に観戦する。札幌チャレンジドは、事務局業務を担当している。

2008年度は、59試合に、児童養護施設から274名、障害のある子どもたちは、164名が参加した。

昨年同様、参加した子どもたちやボランティアから感謝の声が寄せられており、非常にやりがいのある楽しい事業となっている。札幌チャレンジドとしては、NTTコムウェア北海道㈱の社会貢献活動を広く伝えることで感謝の気持ちを現したい。

8. その他

(1) 社会福祉医療機構(WAM)助成事業

「聴覚障害者の就労支援兼要約筆記者養成事業」を実施した。

- ・ 聴覚障害者向けパソコン講習会の開催
- ・ 聴覚障害者向けビジネスコミュニケーション講習会の開催
- ・ 要約筆記者養成講座の開催
- ・ 個人面談、および講師会議
- ・ 就職活動支援

上記事業の成果は以下のとおり。

3月19日現在、7名中4名の受講者の進路が決定した。残り3名の受講者の就職支援については、助成金事業が終了しても継続して行う予定である。

受講サポートをしてくれる要約筆記者を5名育成できた。

中途失難聴者2名と先天性の聾者、難聴者5名により、講習をスタートする事になったが、先天性と中途失難聴の人ではコミュニケーション手段や学校教育の部分でも違いがあり、講習開始当初、相手の障害を受け入れられない傾向のある受講者もいたが、時間の経過とともに、自分とは違う相手の障害を受け入れることが出来るようになってきた。

社会経験の少ない聴覚障害者がコミュニケーション研修でビジネスマナーやコーチング研修を受け、健聴者とのコミュニケーション、聴覚障害者同士のコミュニケーションが円滑になり、自分の意見を積極的に発言できるようになり、自信を得ることができた。

資格取得により、社会に出て行く自信を深めた。

ワード検定3級合格 3名

エクセル検定3級合格 6名

コミュニケーション初級検定 4名合格

(2) 夕張清水沢学園訪問講習

2007年5月から開始した夕張の知的障害者の入所施設「夕張清水沢学園」へのパソコン訪問講習は、2008年度で終了した。月に2回、土曜日にボランティアにも参加してもらい訪問を継続した。

受講者のみなさんは、初めはパソコンに触れることだけでもおっかなびっくり。でも、毎回行く度に興味をもっているたくさんの人たちが出迎えてくれ、帰るときには「またやろうね！」と書いていただき、私たちも次回を心待ちにしながらの活動でした。夕張の仲間たちと札チャレのボランティア、たくさんの人たちと交流ができるといいなあと思い、希望するボランティアさんたちも交えての講習会となり、毎回違ったメンバーでの訪問講習でした。夕張の仲間たちと札チャレのボランティアがたくさんの経験や思い出を共有できた、とても良い機会となりました。

(3) 広報普及・情報発信活動

札チャレ通信（会報誌）の発行（年間11回）。毎回、約1,500部。

札チャレ通信をテープに朗読した視覚障害者向けの「声チャレ」の発送。

ホームページによる情報発信。

札チャレブログおよび札チャレ視覚プロジェクト日記の運営。

視覚プロジェクトのメールマガジン「声チャレ通信」の発行。

新聞社への情報提供による記事掲載。

【NPO 法上のその他の事業】

本年度は実施せず。

以上